

 評価のポイント

CL- I .ニーズを捉える力（精神科）

[10-1] 精神科における薬物療法の実際 作用と副作用を中心に

① クロザピンの適応疾患と、もっとも注意すべき副作用およびその副作用を予防するための方策について説明してください

クロザピンは治療抵抗性統合失調症に日本で唯一適応のある薬です。治療抵抗性とは反応性不良（複数の抗精神病薬を一定期間服用しても効果が得られない）と耐容性不良（副作用が強くなるため薬剤を増量できない）のどちらかがある場合のことを言います。もっとも注意すべき副作用は顆粒球減少（無顆粒球症）で、予防のために CPMS への登録や定期的な採血による白血球数（好中球数）のチェックでデータが基準値以下の場合は処方されないなどのシステムなどが導入されています。もちろん血液データだけではなく日ごろからの看護師の観察による副作用の早期発見が望まれます。自施設にクロザピン運用マニュアルがあれば確認して日々の観察項目など把握しておきましょう。

② なぜ睡眠薬がベンゾジアゼピン受容体作動薬からオレキシン受容体拮抗薬に移行しつつあるか説明してください

ベンゾジアゼピン受容体作動薬は、眠気やふらつきなどの副作用のために高齢者に使いづらい、依存性もあるため処方の中断がしにくい、せん妄の誘発因子となる、などの危険性があるために、最近ではそれらの危険性が比較的少ないオレキシン受容体拮抗薬に移行しつつあります。しかしオレキシン受容体拮抗薬にも副作用がまったくないわけではないため、継続的な副作用の観察は必要になります。